

2011年11月17日(木) 掲載

## 中小工場でも簡単利用

# アンドロイド端末で 設備情報収集・監視

チーム・システム  
ケー・システム



木下 守克社長

製造業向けのシステムインテグレーターとして、さまざまな新しいソリューションを市場に提供しているケー・システム(東京都港区芝浦3の1、社長木下守克氏、☎03-5730-6168)は、スマートフォンを利用した

アンドロイド端末で行える設備情報収集・監視システムを開発。2011年国際ロボット展で初公開して注目を集めた。同システム「F2008」は、同社の販売・在庫まで含めた製販一体の統合管理を実現するシステムスケジューラー「EXPIO-MES」(エクスパイオ)を活用、アド・ジャパン(東京都中央区)が開発した設備稼働状況の収集装置

「ADDO F2008」に集約するソフト。ロボット、工作機械、PLCなど設備情報の案件設定により簡単に情報収集が可能。スマートフォンでリアルタイムに監視イベントに対応する。カメラ映像やトレンド情報などが、いつでも閲覧可能で、無人生産ラインの生産完了も自動通知する。とくにIT化されていない中小企業の工場でも簡単に利用できるのが大

きな利点で、アド・ジャパンと連携してF2008装置の付属ソフトとして販売していく。また、デンソーウェーブのアイズに出展した「ORIN for Android」は、デンソーウェーブのORIN CaosQLサーバで収集した設備情報をスマートフォンにつなげてリアルタイムに監視できる。外出先での設備稼働チェックや、PC端末が近くにない現場作業などでも利用できる。

同社は1980年、伊藤忠テクノサイエンス(現・伊藤忠テクノソリューションズ)の出資協力により設立。2次元CADのカスタマイズ製品や地区情報を取り扱って

96年に独自の技術開発を開始、2004年に生産管理システムとしてオリジナルパッケージEXPIOを開発。現在は製造業向けをはじめ、省エネ、業務系などのソリューション、EXPIOなどを市場に投入してい

る。社員53名のうち、技術担当が46名と徹底した開発集団だ。

EXPIO-MESは、製造現場の見える化をめざす生産実行システムで、工程の最適化をスマートフォンなどで活用する。木下社長は「経営者と現場の視点を一致させながら工場を構築していく情報伝達システムは少ない」という。

製造科学技術センター、機械振興協会技術研究所、ものづくり推進機構、日本小型工作機械工業会などをはじめ、大学や大手メーカーなどさまざまな機関にメンバーとして加入、交流の輪を広げている。3年前にはソフト受注の約7割がSII向けだったが、最近はその逆転し、製造業に直接提案するケースが65%を占めるほど。

今後の事業展開としては「EXPIOを拡販する一方で、協業していたり、進めたい。ニッチな世界なので地道に戦略を構築していく」(木下社長)。

